

光岳（2592m）日本百名山

2022年9月15日 Shiba

日本アルプス最南端の日本百名山である光岳へは聖岳を含めて数年前より計画を試みていた。案としては西側からの登山口である易老渡から入山し、東側の樫島に抜け下るコースなどを考えていた。しかし2015年9月の芝沢ゲートと易老渡間での法面崩落以降、車両の通行止めや通行規制がされていた。芝沢ゲートから易老渡までの1時間30分の程の追加歩行があつては老齢の筆者には辛いこと。そこで東側の樫島あるいは畑薙から入山するコースを模索していたが、新型コロナウイルスのあおりで次々と山小屋が閉鎖。東側からの入山も断念していた。2022年になりタクシーであれば易老渡まで入ってくるとの情報と光岳小屋が食事提供営業をしてくれるとの情報を得たため、光岳のみのピストン山行を実施した。

(9月14日)

京都から豊橋経由で飯田線の平岡駅で下車。ここから乗合タクシーで道の駅遠山郷へ。そして同じ地区にある紺屋旅館に前泊した。4:30に予約したタクシーで易老渡へ向け出発。国道152号線を数キロ北上してから山道に入る。途中に「日本のチロル」と表現され「にほんの里100選」に選ばれた下栗の里の入り口を通過する。一般車が入れるのは易老渡手前の芝沢ゲートまで。運転士が合鍵でゲートの扉を開けている



遠山川に掛かる登山口の橋

ついでに登山届をポストに投函する。ここからは砂利道が多くなるので運転士もより慎重に車を走らせる。宿から20数キロの道のりを1時間強掛かったが芝沢ゲートから易老渡までの5~6kmの道のりを歩かずに済んだのはありがたい。易老渡の駐車場は光岳登山口となる橋の100m程先だがそこまで車を進めてもらう。ここには雨宿り用の小屋と簡易トイレがある。

遠山川に掛かる橋を6:00にスタート。橋を渡るといきなり壁が立ちはだかっている様に感じる。この尾根筋の急斜面をジグザグに登っていく。最初は植林帯だが50分程登るとやがて自然林帯に変わっていく。この道筋一带は大木の倒木がやたらと多くしかもほとんどが苔むしているため日陰であっても緑が多い。またいつまでも樹林帯が続くので遠望が利かない。5時間30分程で2254.5mのピーク点に達する。ここを過ぎた所に、このコース一番の難所の岩場のトラバースがある。長くはないが一旦ストックを納め慎重に進む。12:00丁度に易老岳に到達、ようやく今日の目的地である光岳小屋まで



光岳山頂の標識

の時間的目途がつく。

(9月15日)

朝食後空荷で 5:35 に出発。15 分弱で光岳山頂に着く。日本アルプスの最南端のせいであろうか標高が 2600m 程もあるのに森林限界に達していないため、山頂は樹木で囲まれていて展望は全くない。さらに光石まで足を延ばす。光石のてっぺんは見た目よりは狭く筆者的には立ち上がって写真を撮ってもらうだけの余裕はなかった。南側のへの展望は開けているが遠くは霞んで眺望は利かない。小屋に戻ってひと休憩。昨日も今日も天候的には十分とは言えないが、富士山の上で薄雲の中に淡く大きく光る太陽に幻想的な光景を見ることができた。

◇光岳小屋の営業状況

コロナ禍 1 日の予約数を 14 人限定で、寝袋の持参。今年はヘリでの荷揚げが 1 回限りとして、トイレで使用の紙や空飲料容器の持ち帰り、強制ではないがお米の持参等の要請があった。

◇遠山郷から易老渡間のタクシー運行状況

2022 年は天竜観光タクシーのみの運行で出発時刻 4:30、帰りの最終リミットが 14:30 設定。乗車定員は 3 人設定、それ以上の場合はジャンボタクシーで運行。

料金は片道 12,000 円+送迎 1,000 円、ジャンボタクシーの場合はさらに+6,000 円。

◆メンバー：S、他 2 人

◆コース：(9月14日) 易老渡 6:00～面平～小さな平～P2254.5m～易老岳 12:00～三吉平～光岳小屋 15:25

(9月15日) 光岳小屋 5:35～光岳(光石)～光岳小屋 6:40～易老岳 8:15～p2254.1m～面平～易老渡 14:05

◆所要時間／歩行時間：(9月14日) 9時間 25分／8時間 25分、(9月15日) 8時間 30分／7時間 40分



光岩



光小屋から見るイザルヶ岳と富士山



苔むした登山道 (面平付近)



センジヶ原から見る光岳小屋



センジヶ原下より聖岳を望む